

2022年（令和四年）

6月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/9～6/15のNYMEX・WTI先物市場は、115.31～121.51ドルの範囲で推移した。

6月16日は、米国のイラン石油化学企業への制裁強化発表によるイラン核合意交渉の難航予想、前日のロシア国営ガスプロムによるドイツ向けガスパイプライン「ノルドストリーム」への供給削減発表に伴う原油需給への波及懸念から、3日ぶりに反発した。ただ、前日の米国の大幅利上げ決定による景気減速懸念が上値を抑えた。7月限の終値は前日比2.28ドル高の117.59ドル。

週末17日は、今週の欧米各国中央銀行のインフレ対策のための相次ぐ利上げ決定による景気減速懸念、石油需要減少懸念を受けて、大幅に反落した。3連休を前にした持ち高調整の売りも多かった模様。7月限の終値は前日比8.03ドル安の109.56ドル。

20日は、奴隸解放記念日の振り替え休日につき休場。

連休明け21日は、北半球の夏の行楽シーズン入りの需要増加への期待感やこの日の米国株価の回復、前週の先物原油の値下がりの反動で、反発した。7月限の終値は前日比1.09ドル高の110.65ドル。

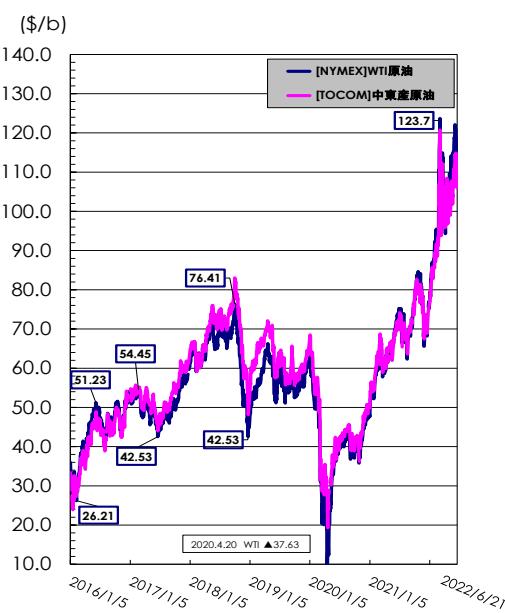
22日は、相次ぐ欧米主要先進国の金融引き締めによる景気後退懸念が高まり、反落した。この日から取引の中心となつた8月限の終値は、前日比3.33ドル安の106.19ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、6月9日～15日の間、115.50～118.90ドルの範囲で推移した。6月16日114.50ドル、17日115.40ドル、20日109.80ドル、21日111.30ドル、22日105.10ドルで推移した。

為替は、6月9日～15日の間、134.13～135.01円の範囲で推移した。6月16日134.31円、17日133.23円、20日135.25円、21日135.21円、22日136.49円で推移した。

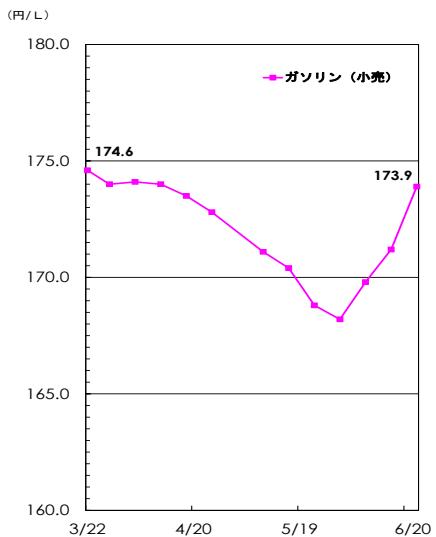
そのような中で、6月20日時点の小売価格は、ガソリンが前週比2.7円の値上がり、軽油も同2.6円の値上がり、灯油は30円の値上がり(18リットルベース)であった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がりであった。ガソリンの全国平均価格は173.9円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は40.5円となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	6/12～6/18	2,670	▼ -25	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	〃	69.4	▼ -0.7	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	6/18	9,708	▲ 338	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/20	106.02	▼ -5.93	▲ 35.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/21	110.65	▼ -10.28	▲ 37.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	108.07	▲ 0.91	▲ 42.51
①	原油CIF単価 (¥/㎘)	〃	88,179	▲ 845	▲ 43,298
②	ドル換算レート (¥/\$)	〃	129.71	▼ -0.14	▼ -20.87
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/20	136.25	▼ -0.25	▼ -25.00



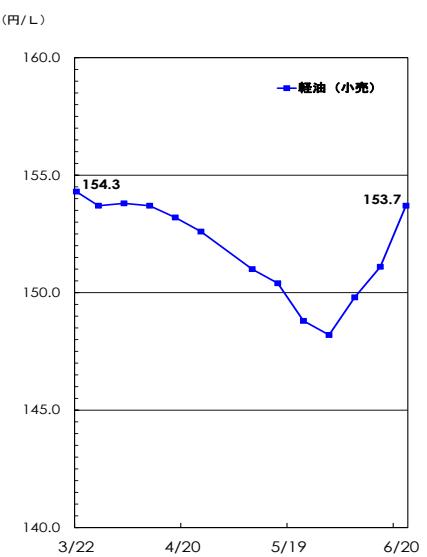
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/12 ~ 6/18	840	▼ -41	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	800	▼ -95	▲ -
	輸出	"	46	▲ 25	▲ -
	在庫	6/18	1,574	▼ -7	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/14 ~ 6/20	83.4	▲ 3.0	▲ 18.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/14 ~ 6/20	86.5	▲ 3.4	▲ 21.4
		(TOCOM/中部)	6/20	82.0	▼ -1.5
					▲ 18.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/20	173.9	▲ 2.7	▲ 18.3

※業転、先物価格は税抜き価格

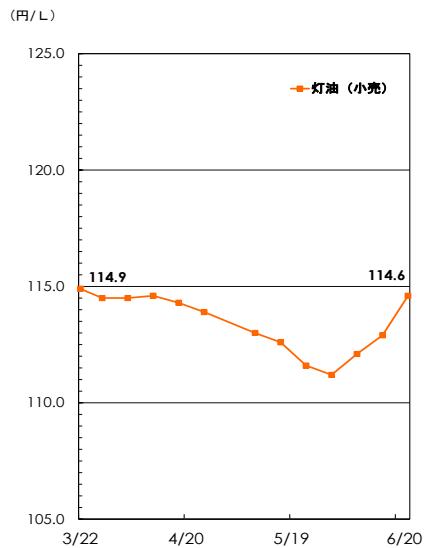


軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/12 ~ 6/18	782	▼ -21	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	665	▲ 36	▲ -
	輸出	"	189	▲ 49	▲ -
	在庫	6/18	1,208	▼ -72	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/14 ~ 6/20	83.0	▲ 3.3	▲ 16.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/14 ~ 6/20	96.2	▲ 1.4	▲ 28.7
		(TOCOM/中部)	6/20	-	-
				-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/20	153.7	▲ 2.6	▲ 18.1

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/12 ~ 6/18	87	▼ -59	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	111	▲ 49	▲ -
	輸出	"	0	► 0	► -
	在庫	6/18	1,326	▼ -24	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/14 ~ 6/20	82.1	▲ 2.3	▲ 15.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/14 ~ 6/20	81.0	▲ 1.0	▲ 18.9
		(TOCOM/中部)	6/20	81.0	▼ -1.0
				-	▲ 16.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/20	114.6	▲ 1.7	▲ 19.3



■ 関連情報

1 海外/原油

6月22日のNYMEX先物原油は、最近の米国連邦準備制度理事会(FRB)、欧州中央銀行(ECB)、イングランド銀行、イスイス銀行等の欧米先進国が、インフレ対策として、大幅金利引き上げを決定したことを受け、景気後退による石油需要の減速懸念が高まり、反落した。この日、シティグループは、世界経済のリセッション(景気後退)入りの確率は、50%に近付いていると発表した。米国エネルギー情報局(EIA)発表の週間在庫情報の発表は、連休のため、23日の発表予定。この日から取引の中心限月となった8月限は3.33ドル安の106.19ドル、9月限は3.35ドル安の103.99ドルだった。

EIAによると、6月20日時点のガソリンの小売価格は、システム障害につき発表が延期された。なお、この日、米国小売

価格の最高値更新を受けて、バイデン大統領は、物価高騰対策として、ガソリンと軽油への課税を3か月間停止するよう議会に要請した。

ペーカーヒューズ社によると、6月17日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比4基増の584基と3週連続の増加で2020年3月以来の高水準となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年6月12日～18日に休止したトッパー能力は88.3万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は267.0万kLと、前週に比べ2.5万kL減少。前年に対しては29.1万kLの増加。トッパー稼働率は69.4%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては7.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.6%減、ジェット/21.3%増、灯油/40.5%減、軽油/2.6%減、A重油/5.3%増、C重油/7.9%減。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比0.5万kL減)。軽油の輸出は18.9万kL(前週比4.9万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では全ての油種で増加した。ガソリンの出荷は80.0万kL(前週10.6%減)と3週振りに減少した。ジェット9.9万kL(前週12.1%増)、灯油11.1万kL(前週79.5%増)、軽油66.5万kL(前週5.8%

増)、A重油19.7万kL(対前週41.1%増)、C重油15.1万kL(対前週19.6%減)。

(単位:千kL)

	今週 (6/12～6/18)	前週 (6/5～6/11)	前週比
ガソリン	800	895	▼ -95 (-11%)
ジェット燃料	99	89	▲ 10 (11%)
灯油	111	62	▲ 49 (79%)
軽油	665	629	▲ 36 (6%)
A重油	197	140	▲ 57 (41%)
C重油	151	188	▼ -37 (-20%)
合計	2,023	2,003	▲ 20 (1%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月18日時点の在庫はジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で減少となった。

ガソリンは157.4万kL、前週差0.7万kL減。前年に対しては79.1万kL少ない。

灯油は132.6万kL、前週差2.4万kL減。前年に対しては36.9万kL少ない。

軽油は120.8万kL、前週差7.2万kL減。前年に対しては68.0万kL少ない。

A重油は68.1万kL、前週差2.0万kL減。前年に対しては7.5万kL少ない。

C重油は180.3万kL、前週差3.9万kL減。前年に対しては14.6万kL少ない。

(単位:千kL)

	今週 (6/18)	前週 (6/11)	前週比
ガソリン	1,574	1,581	▼ -7 (-0%)
ジェット燃料	757	737	▲ 20 (3%)
灯油	1,326	1,350	▼ -24 (-2%)
軽油	1,208	1,280	▼ -72 (-6%)
A重油	681	701	▼ -20 (-3%)
C重油	1,803	1,842	▼ -39 (-2%)
合計	7,349	7,491	▼ -142 (-1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月14日～20日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは円安であったが、元売会社の原油コストは1.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額41.4円を加えたコスト上昇額39.9円に、補助金40.5円(計算上46.0円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(6/23～6/29)の元売会社の実質的な卸価格は0.6円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月14日～20日の製品スポット市況は、6月7日～13日平均と比べ、全ての取引・油種で値上がりした。

直近週(6/14～6/20)の陸上スポット価格平均値は、前週(6/7～6/13)比で、ガソリンは3.0円の値上がり、灯油は2.3円の値上がり、軽油は3.3円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/14～6/20)に、前週(6/7～6/13)比で、ガソリンは3.5円の値上がり、灯油は2.0円の値上がり、軽油は2.6円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.4円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。

(RIM) [陸上ローリー 4地区平均]		(単位:円/㍑)		
		今週 (6/14～6/20)	前週 (6/7～6/13)	前週比
ス ポ ツ ト 価 格	レギュラー	83.4	80.4	▲ 3.0
	灯油	82.1	79.8	▲ 2.3
	軽油	83.0	79.7	▲ 3.3

(TOCOM) [期近物/終値 [平均]]		(単位:円/㍑)		
		今週 (6/14～6/20)	前週 (6/7～6/13)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	86.5	83.1	▲ 3.4
	灯油	81.0	80.0	▲ 1.0
	軽油	96.2	94.8	▲ 1.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/14～6/20実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 3.0	▲ 3.4	▲ 3.2
灯油	▲ 2.3	▲ 1.0	▲ 1.7
軽油	▲ 3.3	▲ 1.4	▲ 2.3
A重油	▲ 2.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.7円高の173.9円、軽油も同2.6円高の153.7円、灯油は18%ベースで同30円高の2,063円(1%ベースでは同1.7円高の114.6円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは全47都道府県、横ばいはなし、値下がりもなかった。全国最安値は岡山県の168.9円、その次は埼玉県の169.1円であった。他方、最高値は長野県の183.7円だった。最も値上がりしたのは山梨県(前週比5.0円高)、横ばいはなし、値下がりした県もなかった。

次回調査時(6/27)のガソリンの小売価格は、元売の実質卸価格は下がったものの過去の値上がりの未転嫁分があることから、値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (6/20)	前週 (6/13)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	173.9	171.2	▲ 2.7
	灯油	114.6	112.9	▲ 1.7
	軽油	153.7	151.1	▲ 2.6

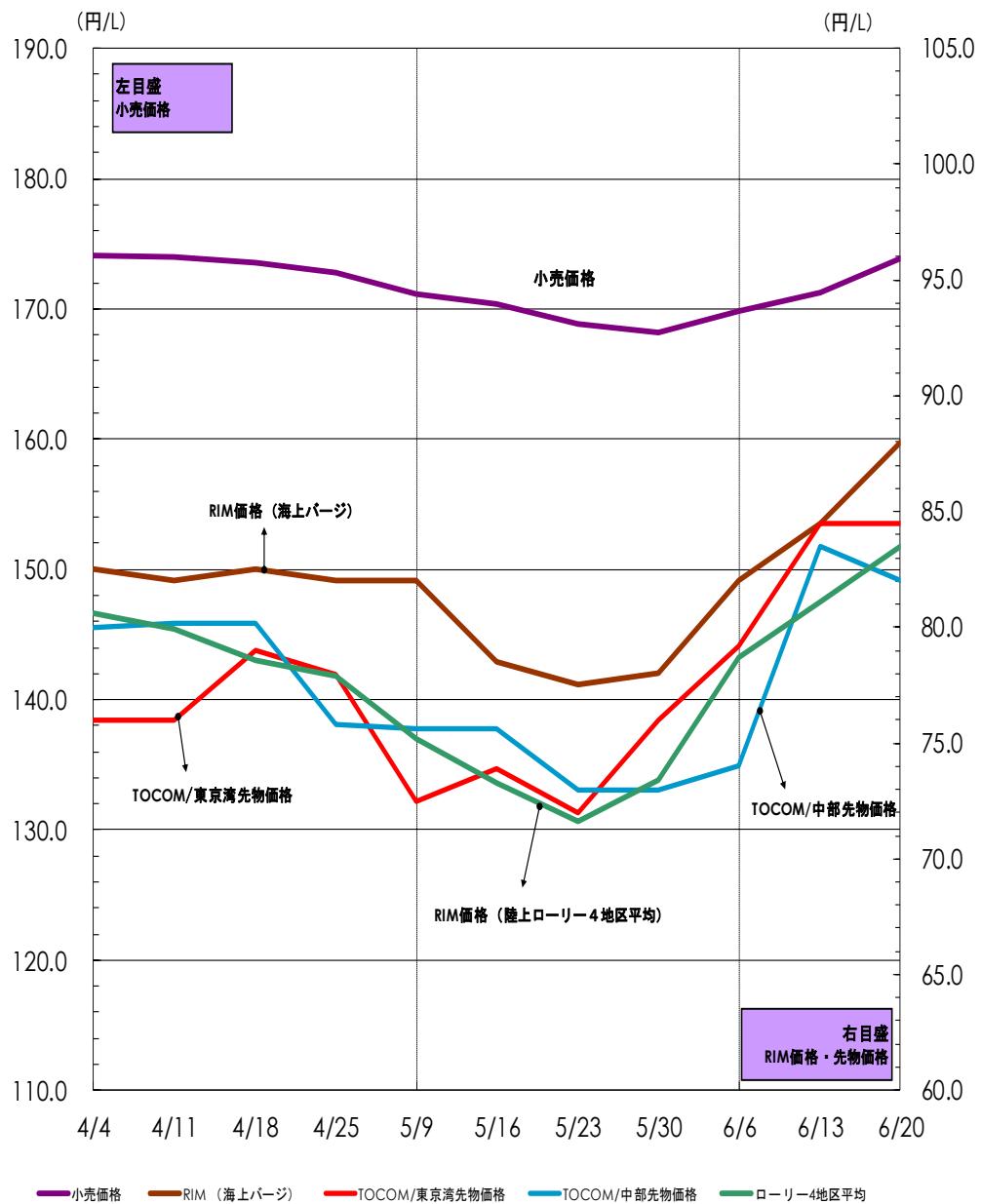
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/4/4 ~ 2022/6/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2022第13号）の公表は、7/1（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。